



消防大学校だより

緊急消防援助隊教育科 高度救助・特別高度救助コースにおける教育訓練

消防大学校では、高度な資機材を装備し、又は装備する予定である救助隊の隊長若しくは指導・監督的な立場である者又はそれらの予定者を対象に、その業務に必要なとなる高度な知識及び能力を修得させることを目的とした「緊急消防援助隊教育科 高度救助・特別高度救助コース」を実施しています。

令和4年度の第12回(令和5年3月2日～3月15日)では、全国33都府県48名の学生が、2日間のリモート講義を含む全10日間の教育を受講しました。

本稿では、緊急消防援助隊教育科 高度救助・特別高度救助コースにおいて実施した教育内容について紹介します。

本コースの学生は、緊急消防援助隊の都道府県大隊救助中隊の中核を担う役目もあることから、安全管理、現場指揮、初動対応(活動)にポイントを絞ったカリキュラム構成としました。

講義では、指揮者として必要な安全管理、広域消防応援、応援体制、受援体制及び他機関連携等を学び、再確認しました。

実科訓練では、指揮シミュレーション訓練や高度救助資機材を使用した初動対応(活動)訓練、昨今頻発している土砂災害への対応訓練及び実際の緊急消防援助隊を想定した派遣要請からの出場・情報収集・各種災害対応・大隊運用等、長時間の緊急消防援助隊活動訓練を実施し、改めて、安全管理、現場指揮、初動対応(活動)の重要性を認識しました。



指揮シミュレーション訓練

校外研修では、消防庁危機管理センターと東京消防庁即応対処部隊を視察し、有事の際のオペレーション、体制に直接触れることができ、知見を広めました。



緊急消防援助隊活動訓練

最終日の課題討議では、緊急消防援助隊の応援(受援)体制及び大規模災害時における救助現場指揮の問題点・課題について、消防庁担当者と直接意見交換を行えたことにより、今後の消防力の充実強化及び各所属の問題・課題解決の一助につながるものとなりました。



課題討議(消防庁との意見交換)

研修を終えた学生からは、「緊急消防援助隊について、深く理解できた」、「自分に足りないもの、自分の役目が明確になった」、「現場指揮の難しさ、安全管理の重要性を再認識した」、「全国に志を同じくする仲間ができ、活発な意見交換ができた」などの意見が寄せられました。

今後は、一人でも多くの方々を救うべく、消防大学校で再認識した安全管理、現場指揮、初動対応(活動)にさらに磨きをかけ、困難な状況下でも、先頭に立って道を切り開いていく(「0(ゼロ)を1にする」)ことが期待されます。



消防大学校だより

令和5年度 消防大学校 客員教授について

消防大学校では、客員教授制度により、消防に関し特に優れた知識及び経験を有し消防大学校における教育等に対して顕著な協力をいただける方に対し、客員教授の称号を授与しています。

この度、令和5年度の客員教授名簿を作成しましたので、教育訓練等の講師選定の参考として紹介します。

※ 客員教授の連絡先については、消防大学校担当者までお問い合わせください。

※ 客員教授への講師依頼等の事務については、依頼元（各地域の消防学校等）が直接行い、これに係る費用は、依頼元において御負担ください。

専門分野	氏名	所属・職名
(1) 教育技法	山崎 洋史	仙台白百合女子大学教授
(2) 組織管理	新井 雄治	元東京消防庁消防総監
(3) 消防実務法規	秋山 恵	元東京消防庁理事兼総務部長
(4) 予防法令運用	荒井 伸幸	元東京消防庁理事兼総務部長
(5) 地域防災	瀧本 浩一	山口大学大学院創成科学研究科准教授
(6) 惨事ストレス対策	松井 豊	筑波大学名誉教授
(7) 危機管理	鈴木 洋	元横浜市消防局長
(8) 危機管理	石井 隆一	元消防庁長官

問合せ先

消防大学校教務部
TEL 0422-46-1712